

目 次

- 1. 会長挨拶 田和正孝
- 2. 新しい事務局体制について 山尾政博
- 3. 第59回大会案内 玉置泰司
1) 大会案内 2) シンポジウム概要
- 4. 大会関連のお知らせ 天野通子
1) 大会個別報告の申し込み手順 2) 学会賞の推薦について
- 5. 第58回大会印象記 崎田 誠志郎

1. 会長挨拶

次へと引き継ぐ

会長 田和正孝

若葉薫るすがすがしい季節となつてまいりました。会員の皆さまには日々ご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃より学会運営に関しまして貴重なご助言を賜り、誠にありがとうございます。

さて、2015年の第57回大会理事会・総会において承認されました学会事務局の移転につきましては、2016年度において慎重に進めてまいりましたが、結果として2017年度にずれ込むことになりました。これも偏に小職の不徳のいたすところであり、まずはこれまで長きにわたって事務局をご担当くださってきた鹿児島大学水産学部の先生方にお詫びを申し上げますとともに、会員の皆さまにもお詫び申し上げます。

この間、事務局の引継ぎをお申し出くださった中四国部会の先生方、特に山尾政博会員ならびに天野通子会員には、お忙しい時間を押して鹿児島、愛媛、東京とまさに東奔西走いただき、事務処理と今後の方針決定に対してご尽力くださいました。ここに厚くお礼を申し上げます。

事務局の移転先につきましては、業務をお願いする各大学・研究機関の本務の状況および昨今の各学会における事務局運営を勘案した結果、事務運営会社をお願いしてはどうかと考え、昨秋より複数の会社にお世話になるのがよいと判断いたしました。去る4月21日には山尾会員とともに小職も共立へ出向き、最終の業務確認と契約を執り行なうことができました。このたび、2017年5月1日をもって事務局の移転が無事、完了いたしましたことをここに報告申し上げます。

近年の学会活動は、会員数の確保、若い年齢層の研究者養成、電子ジャーナル化など、課題が山積

しています。その中であって事務局業務を新たに固定することによって、会員の皆さまには、研究や教育活動に割いていただく時間を少しでも多くおとりいただくことを願ってやみません。また、できる限りスリムな事務局運営の状態を確立し、次世代の会員にバトンタッチしたいという強い希望も持ちあわせております。どうか皆さまにおかれましては、今回の事務局移転をよろしくご理解くださいますようお願い申し上げます。

改めまして、本当に長い間、事務局をお引き受けくださいました鹿児島大学の先生方に対しまして、皆さまとともにお礼を申し上げ、ご挨拶ならびにご報告といたします。

2. 新しい事務局体制について

1) 中・四国理事会が事務局を担当し、株式会社共立が事務作業を代行いたします。

中・四国部会の理事を中心に事務局移転の準備を行ってきました。また、この移転を機に、事務の外部委託を行うように準備をしておきました。5月1日より、学会誌及び会報の発送、会費請求と徴収、会員情報の管理、会計事務等については、株式会社共立が行います。もちろん、会計事務については田和会長及び事務局担当理事の管理の下に行われます。会員情報についても厳格に管理するよう注意を払っております。

会報はこれまで通りに紙媒体で皆様にお届けしますが、事務局からの連絡事項はメールにてもお知らせいたします。速報性や経費のこともあり、今後はできるだけメールを活用していきたいと考えております。

2) 会員情報更新、メール登録はホームページ上から

メール登録をされている会員は多くはありません。これを機会にメール登録をしていただくようお願いいたします。(メールの配信数は多くはいたしません)

メールアドレスの変更、住所変更は、WEB上でできます。

<http://jrfs.org/nyukai.html>

このページの入会・変更の箇所をクリックしてください。入会希望の方には、いつでも登録できる、とお伝えください。また、お近くの会員にも、お知らせください。

ホームページの内容は大きく変わっておりませんが、一度のぞいてみてください。

<http://jrfs.org/>

3) 郵便振替はこれまで通り、銀行口座が変わりました。

名義はいずれも、地域漁業学会、です。会費振込は個人会員の皆様は郵便振替でお願いします。企業・団体会員の皆様は銀行をご利用ください。

郵便振替 01750-0-83886

三菱東京 UFJ 銀行 新富町支店 普通 0146078

4) お問い合わせ先

不明な点がございましたら、ホームページ上の問い合わせメールでお願いします。事務的なことについては、共立のご担当者がおこたえいたします。

株式会社共立の住所・連絡先

〒104-0033 東京都中央区新川 2-22-4 新共立ビル (株)共立 内

(担当：三角誠司) TEL: 03-3551-9896 FAX: 03-3553-2047

最後になりますが、長年にわたって学会事務局活動をしていただいた、佐久間先生をはじめとする鹿児島大学の皆様、ありがとうございました。

事務局 山尾

(当面は、山尾、若林、竹ノ内、天野が担当しますが、お手伝いしてくださる方を募集しております)

5) 編集作業は8月から暫時移行作業に入ります。

編集委員会の機能や投稿規定はそのままです。ただ、次期に予定される編集作業の一部外部委託に先立って、8月以降に受け付ける投稿原稿からは、送付先が変わり、電子ファイルでの投稿に変わります。

詳しい手順につきましては、6月末を目途に、ホームページ上でお知らせいたします。

3. 第 59 回大会案内

1) 大会案内

地域漁業学会 第 59 回大会のご案内

今年の地域漁業学会大会は、大東文化大学板橋キャンパス（東京都板橋区）において開催させていただきますことになりました。最寄駅は都営三田線西台駅（副駅名：大東文化大学前、大手町駅から 31 分）、下車後徒歩 10 分です。皆様のお越しをお待ちしております。以下に簡単な会場の紹介を致します。

日時：2017 年 10 月 28 日（土）～29 日（日）

28 日午前：理事会等、午後：一般報告・ミニシンポ、夜：懇親会

29 日：シンポジウムと総会：15 時半ごろ終了

●詳しいスケジュールは改めてお知らせいたします。

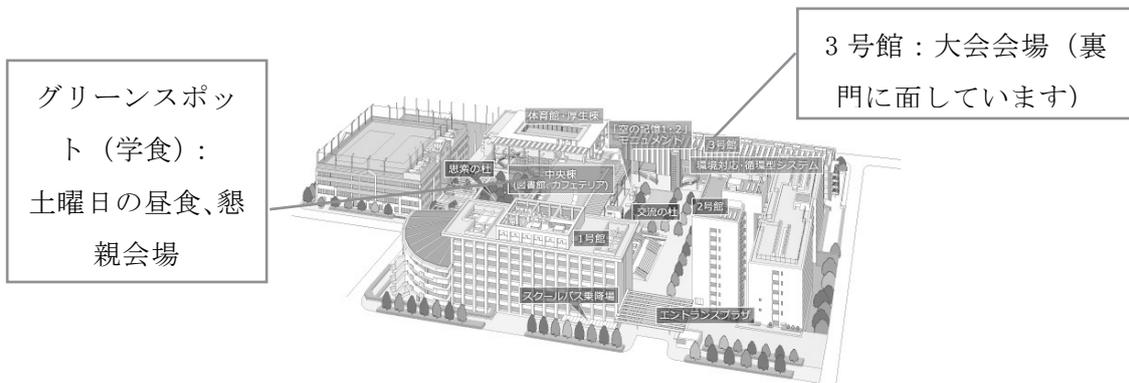
アクセス：都営三田線西台から徒歩 10 分。

東武東上線東武練馬駅（池袋から 15 分）下車後、学バス（無料、7 分）で来校していただくこともできます。但し土曜日の夜間と日曜日はバスの運行はありませんのでご注意ください。

詳しくは大学ホームページをご覧ください

<http://www.daito.ac.jp/access/itabashi.html>

場所：175-8501 東京都板橋区高島平 1-9-1 大東文化大学板橋キャンパス



食事：28 日（土曜）は昼食に学内の 2 食堂（生協、グリーンスポット）をご利用いただけます。28 日夜の懇親会はグリーンスポットです。29 日（日曜）は食堂が休みなので、お弁当を持参いただくか、近くのコンビニ（正門、裏門徒歩 1 分）や学外の食堂（ジョナサンなど）をご利用ください。西台駅付近にも小さなレストランがいくつかあります。

宿泊：西台駅周辺には宿泊施設はありません。都営三田線沿線か、JR 山手線巣鴨、池袋、新宿あたりがご来校には便利です。

2) シンポジウム概要

(1) テーマ

「定置網漁業の今日的評価」

シンポジウムコーディネーター 玉置泰司

(2) シンポジウムの趣旨

定置網は我々にとって最も身近で営まれている漁業であるにもかかわらず、これまで本学会でシンポジウムテーマとして取り上げられたことはなかった。本学会シンポジウムが東日本で開催されるのは、2002年の第44回金沢大会以来となるが、定置網は東日本各地においても重要な漁業であり、シンポジウムテーマとしてスポットライトを当てるのはふさわしいものと考えた。本シンポジウムでは定置網のうち、定置漁業権に基づいて営まれている大型定置網・さけ定置網（以下定置網漁業）を主眼にして取り扱うこととする。

沿岸漁業の漁獲量に占める定置網漁業の比率は、省人省力化機器の導入が積極的に始まろうとした1968年が5.7%と、沿岸漁業の生産統計が1956年に取られてから最も低かったが、その後増加し、直近の2015年には33.1%でこれまでで最高の比率となった。漁業生産額で見ても、沿岸漁業生産額に占める定置網漁業の比率は、1968年には9.4%と1956年以降最も低かったが、その後はおおむね増加傾向にあり、2006年には21.5%に上昇した（漁業種類別生産額統計は2007年以降公表されていない）。

沿岸漁業の中で、定置網漁業の位置付けが増大しているのは、漁獲量・漁業生産額だけではない。定置網漁業の中で比較的規模が大きな経営体は、1990年代半ば以降、Iターンを含めた若者の就業が増加しており、沿岸漁業の中で存在感を強めている。

戦後の漁業制度改革による漁村民主化の中で、定置網漁業の全村的経営である「村張り組織」が多く設立された。この村張り組織はその後漁協自営、会社組織などに転換したところも含めて、現在の定置漁村における活性化に大きく貢献している。定置漁村においては、1980年代頃から村張り組織による観光定置や中学生の漁村宿泊が知られるようになり、1990年代から漁協経営による直販所やレストランの設立が増加するようになった。また、六次産業化法が施行された2010年頃から私的会社組織による水産加工、レストランなどの経営がみられるようになった。

本シンポジウムでは、定置網漁業が漁村活性化にどのように貢献しているのか、多角的な面から改めて評価を行い、今後の展望を探ることとしたい。

(3) 構成（報告タイトルは仮題）

司会：玉置泰司（中央水産研究所）、大谷誠（水産大学校）

第1報告：定置網漁業就業者の動向：松浦勉（中央水産研究所）

第2報告：さけ定置網を中心とした生産・加工・輸出の動向：清水幾太郎（北海道区水産研究所）

第3報告：もうかる漁業の改革計画による定置網漁業の将来像：奈田兼一（特定非営利活動法人水産業・漁村活性化推進機構）

第4報告：定置網漁業の経営形態と漁村活性化への貢献：馬場治（東京海洋大学）

第5報告：定置網漁業による六次産業化と新しい経営方向：酒井秀信（(株)鹿渡島定置）

コメンテーター

- ① 森義信（一般社団法人 日本定置漁業協会）
- ② 林紀代美（金沢大学）
- ③ 婁小波（東京海洋大学）

(4) タイムスケジュール

10月29日（日）9:00～14:30

9:20～11:50 報告者報告

11:50～12:30 昼休み

12:30～13:00 コメンテーターコメント

13:10～14:30 総合討論

4. 大会関連のお知らせ

1) 大会個別報告の申し込み手順

大会個別報告エントリーの流れ

1. 報告者、タイトルの提出（締め切り:9月1日）

以下の内容を事務局大会担当までメールでご連絡ください。

- ・報告者、連名報告者の所属と氏名
- ・報告のタイトル
- ・PDFまたはパワーポイント利用の有無

*数日以内に受付確認メールが届きます。
*会費未納の方は、申し込み際に必ずお支払いください。

2. 報告要旨の提出（締め切り:9月25日）

学会HPから「個別報告要旨（様式）」をダウンロードして作成し、Word形式のファイルをメールに添付し事務局大会担当に提出してください。
・A4版横書き用紙1枚以内（1,000字程度）、キーワードを3～5個、つけてください。

3. 個別報告スケジュールの発表（10月5日ごろを予定）

学会HPの大会案内にスケジュールを掲載いたします。
→<http://www.jrfs.org/annai.html>

■ 申込・提出・お問い合わせ先: 事務局大会担当: 山尾、天野
E-mail: chiikioffice.chushikoku@gmail.com

注意事項

- メールをお送りいただいた後、数日たっても受付確認メールが届かない場合は、行き違いをさけるために担当者あてにメールでご連絡ください。
- 「個別報告要旨(様式)」は学会HPの大会案内(<http://www.jrfs.org/annai.html>)に掲載されています。ダウンロードしてご利用ください。
- お送りいただいた原稿は、報告要旨集に収録して配布・販売するほか、地域漁業学会のHP等に掲載・公表される事があります。ご了承ください。
- シンポジウム報告者の方は、9月25日までに報告要旨をお送りください。枚数制限はありません。また、コーディネーターより指示がある場合はそちらにしたがってください。
- ~~会費を滞納している会員は、個別報告に申し込むことができません。事前に会費を納めていただきますようご協力をお願いいたします。~~

2) 学会賞の推薦について

学会賞推薦のお願い、手順

1. 「学会賞」、「学会奨励賞(中樞賞)」、「学会功労賞(柿本賞)」の推薦
(締め切り:9月30日)

↓
以下の内容を学会事務局(学会賞担当)までメールでご連絡ください。

2. 被推薦者の氏名、同勤務先、推薦理由、その他必要事項をご記入ください。

↓
学会HPから「学会賞推薦書類(様式)」をダウンロードして作成し、
PDF形式のファイルをメールに添付して学会事務局(学会賞担当)に提出してください。
・A4版横書き用紙1枚以内(1,000字程度)

3. 推薦書を学会賞選考委員会にお届けします。

■ 申込先・お問い合わせ先: 学会事務局
E-mail: jrfs@kyouritsu-online.co.jp

5. 第 58 回大会印象記

学際領域としての漁業研究

崎田 誠志郎 (名古屋大学大学院)

2016年10月29日から30日にかけて、大分県別府市で開催された地域漁業学会第58回大会に参加した。筆者は名古屋大学地理学講座に在籍しており、研究室のメンバーは農山村や都市、リモートセンシング、地形学など、さまざまなテーマで研究に取り組んでいる。そのため、「漁業」を共通テーマに議論を交わすことのできる地域漁業学会大会は筆者にとってとても貴重な場であり、今回もスケジュールなど後で都合をつければよいと、半ば見切り発車的に参加を決めた。その結果、2ヶ月間の海外調査を終えて羽田空港に到着したのが10月29日未明、スーツも準備できないままでの滑り込み参加となってしまったが、その甲斐あって、シンポジウム・個別発表ともに大いに刺激を受けることができた。

今大会では26件の個別発表がエントリーされ、A~Cの3会場に分かれての報告となった。少なくとも筆者が入会した2014年以降では発表数が最も多かったようである。発表の傾向をみると、地域漁業の存続・振興、流通の経済分析、漁業・海洋環境の管理、過去の漁業活動に関する史的考察などが中心的な話題であった。漁業研究を始めて数年程度の駆け出し学生にとっては、漁業研究の蓄積とすそ野の広さに改めて敬服し、その発展性に大いに励まされる。特に、筆者が詰めていたA会場ではこれらの発表がまんべんなく盛り込まれ、さまざまな視点・分野からなされた国内外の事例研究や理論的検討の成果に触れることができた。恐縮ながらお名前を挙げると、筆者の前後にご報告された中村亮先生(タンザニア地域研究)、猪又秀夫先生(国内漁業制度)、鳥居享司先生(フィジー漁業制度)のご発表内容は、国内外での漁業管理研究に四苦八苦している筆者にとって大いに示唆的であった。

続いては僭越ながら、自身の発表を通じて得た印象を書き綴ってみたい。筆者はギリシャにおける沿岸漁場の利用と管理を目下の研究テーマとしており、エーゲ海やイオニア海で漁師とともに海に出ながら調査に勤しんでいる。今回の発表は、数日前までの現地調査をもとにしたいわば産地直送の内容であったが、それだけに練り込み不足感も拭えず、質疑では鋭いご指摘・ご質問を多くいただいた。いずれも調査研究の過程で見落とししていた点や、検討不足を感じてはいたがうまく消化できていなかった点である。また、漁業を前面に打ち出した発表ができることに単純な喜びを感じる一方で、自身が地理学の立場にあることが改めて自覚され、どのように漁業研究に携わっていくべきかということも再考させられた。今回の経験から、多様な場で、定期的に自身の研究を開陳していくことの大切さを再確認することができた。

シンポジウムでは久しぶりに日本の漁業者の方々と意見を交わすことができ、国内漁業に対する問題意識も新たになった。しかしあまりにも慌ただしい参加となってしまったので、次回はきちんと身だしなみを整え、ゆっくり温泉に浸かっていけるくらいの余裕を持って参加したい。

地域漁業学会

<http://jrfs.org/>

本部事務局 株式会社共立内

〒104-0033 東京都中央区新川 2-22-4 新共立ビル (株)共立 内

(担当: 三角誠司) TEL: 03-3551-9896 FAX: 03-3553-2047

郵便振替: 01750-0-83886

銀行振込: 三菱東京UFJ銀行 新富町支店 普通 0146078